

KHK
総合研究所

産学との連携を強化

国内最大級の内圧試験装置



福島 洋審議官



市川祐三会長



川本武彦理事

高圧ガス保安協会(市川祐三会長)が建設を進めていた総合研究所(町

田市忠生地内)の改築工事が完成し7月28日、竣工式が開かれた。同研究所は昭和50年に「液化石油ガス消費者保安センター(附属研究所)」として

地下1階延べ床面積1382・44平方メートルの規模。改築計画は、旧施設の老朽化及び地盤沈下などにより全面改築を決定。昨年2月に安全祈願祭を

竣工式には、業界団体など関係者ら約50人が出席。神事、テープカットなどを行い、無事完成を祝った。

調査業務など存分に活用できる環境は整った。従来、研究所を使う機会のなかつた民間企業にも設備を活用していただく

別企業ではできないような検査に関しては是非、この施設を使いきちんとした検査を経て世に出していくことが重要。産業界も7月から経産省と

また、川本武彦理事(サイサン社長)は、「昭和50年に設立されて以来、LPガスと高圧ガスの保安に特化した研究を進めてきた研究所が、40年の時を経て素晴らしい施設に生まれ変わった。

に改称、平成8年に高圧ガス保安研究室を配置、平成24年に両施設を統合し総合研究所として研究にあたった。また、

設備として従来の試験設備に加え、大型の蓄圧器等を対象とする国内最大級の内圧試験装置を整備している。

「新研究所のたうえで、」と振り返っている。また、

また、川本武彦理事(サイサン社長)は、「昭和50年に設立されて以来、LPガスと高圧ガスの保安に特化した研究を進めてきた研究所が、40年の時を経て素晴らしい施設に生まれ変わった。



関係者によるテープカット

市川会長は、「設立から40年、研究面ではLPガスのマイコンガスメータの開発など先駆的な役割を担ってきた。また、地道な活動としてはガス漏れ警報器の研究や事故解析なども進めており、これらの知見は我が国の高圧ガスに関する基盤の一部を形成していると自負している」と振り返っている。

また、川本武彦理事(サイサン社長)は、「昭和50年に設立されて以来、LPガスと高圧ガスの保安に特化した研究を進めてきた研究所が、40年の時を経て素晴らしい施設に生まれ変わった。

また、川本武彦理事(サイサン社長)は、「昭和50年に設立されて以来、LPガスと高圧ガスの保安に特化した研究を進めてきた研究所が、40年の時を経て素晴らしい施設に生まれ変わった。